

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 ふじのくに多文化共生ネット

1. 事業名称

世界文化遺産「富士山」を有する地域に力を与える外国人と日本人の多文化共生サポーター育成事業

2. 事業の目的

沼津市や三島市、富士市などの静岡県東部地域では日本語能力が入門・初期レベルの外国人に対する日本語教育事業は進んでいる。しかし、彼らが社会参画するまでの日本語教育の支援は不十分である。しかし、これからの多文化共生社会の構築には、高い日本語能力を有する外国人が率先して地域の活動に参画し、日本語で意思疎通を図り、相互理解を深める機会が必要である。同時に地域住民が日本語教育に関わり外国人の日本語教育が日本の社会にとっても意義があることを実感することも日本語教育の体制整備に必要であると考え。そこで在住外国人の能力を地域住民との協働で地域に活かすことを目標に、外国人と日本人の多文化共生サポーターを育成し、地域の活性化を図り多文化共生社会づくりを目指していく。静岡県東部地域は世界遺産「富士山」を有する大変風光明媚な地域である。なかでも富士・沼津・三島エリアにはデカセギと呼ばれる外国人・研修生・就学生・留学生だけでなく定住する外国人も増加しており、この20年間で外国人登録者数は全国で10位から8位に、人数は約3.5倍になっている。彼らが自ら居住する地域に愛着を持ち、日本人住民と良好な意思疎通が出来る日本語能力を身につけ、さらにはオールドカマーとニューカマーを繋ぐ役割も果たしていけるような道筋を整備することにより、外国人の日本語能力の向上と、外国人・日本人双方の多文化共生についての意識啓発を図っていききたい。

3. 事業内容の概要

現在の既存の日本語教室では日本社会に実践者として参画するのに必要な日本語を学ぶことが出来ない環境にある。また、指導者も社会経験や企業等でのプレゼンテーション能力等を有していない人材のため、十分な指導にあたることができない。しかしながら、ある程度の日本語能力を有した外国人は、日本人と日本語で交流したい、地域の活動に参加したい、交流イベント等を企画運営したい、さらなる能力を開花させたいと考えている。こうしたことから、上記課題を解決すべく、①プレゼンテーションや企画立案のできる日本語を学ぶ教室の開催、②日本語で学んだことを活かして日本人と相互理解を深め日本人と協働して事業(講座やイベント)を企画し運営する機会の提供、③本事業の成果について地域に外国人の日本語教育と多文化共生の意義と必要性をアピールし、事業のノウハウを提供し、静岡県東部の日本語教育団体の横の繋がりを強化するためのシンポジウムの開催、という3つの取組により、地域における外国人の高度人材育成のスキームを確立する。さらに、地域財産として埋もれてしまっていた能力や可能性のある外国人・日本人の発掘を行い、多文化パワーを活用した地域力向上を図っていく。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年8月21日 13:30-17:30	4	プラサヴェルデ	河森、久保田、高澤、田中、原澤、深澤、堀	事業全体のスケジュールと内容	日時、会場、講師の役割分担
2	平成26年3月6日 10:00-12:00	2	東部イノベーションセンター	加藤、河森、久保田、高澤、田中、原澤、深澤、堀	シンポジウム準備	会場レイアウト、発表内容
3	平成26年3月15日 16:45-18:45	2	プラサヴェルデ	河森、久保田、高澤、田中、原澤、深澤、堀	シンポジウムふりかえり	今後の活動

5. 取組についての報告

○取組1: 市民と協働しながら学ぶ外国人多文化共生サポーターのための日本語講座

- (1) 体制整備に向けた取組の目標 在住外国人の能力と多文化パワーを地域の力とし、地域の日本人住民との協働で地域に活かすために、外国人多文化共生サポーターの育成を行う。

(2) 取組内容

在住外国人の能力と多文化パワーを地域の力とし、地域の日本人住民との協働で地域に活かすために、外国人多文化共生サポーターの育成を行う。このサポーターとは、日本人には自身の民族性や文化、価値観などを日本語でわかりやすく伝え、同郷の後輩外国人には自身の経験から日本社会における生き方や日本の習慣、日本人の価値観などをわかりやすく伝えることができ、その機会の提供として講座やイベント等を企画し、公共施設等で運営することのできる人材を指す。そのために彼らが日本人住民と良好な意思疎通が出来る日本語能力を身につけ、居住している地域にも愛着を持つために必要となる日本語能力を習得するための講座を、多様な機関により開催する。また、既にサポーターのような活動をしている外国人にはリカレント研修としていく。

(3) 対象者

日本語能力が中級レベル以上で多文化共生サポーターとして地域に参画することに興味のある外国人市民と静岡県東部地域在住在勤在学で多文化共生・日本語教育に関心のある日本人市民

(4) 参加者の総数 24 人

(出身・国籍別内訳 ウルグアイ1人、ブラジル2人、アルゼンチン2人、ペルー2人、フィリピン1人、台湾2人、ベトナム1人、日本13人)

(5) 開催時間数(回数) 8 時間 (全 3 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 10月5日 10:00- 12:00	2	日大駅前校舎	10人	ブラジル(2人)、ペルー(1人)、日本(7人)	地域研修とオリエンテーション	講座全体の説明、地域研修の内容、プレゼンテーション説明、	久保田実、高澤啓子、田中拓郎	
2	平成25年 10月19日 10:00- 12:00	2	日大駅前校舎	5	ウルグアイ(1人)、アルゼンチン(1人)、フィリピン(1人)、ブラジル(1人)、日本(1人)	地域毛研修で気付いたこと、発見したこと	地域研修で気付いたことや発見したことを話しあい発表	田中拓郎	高澤啓子
3	平成25年 10月19日 13:30- 16:30	3	日大駅前校舎	11	アルゼンチン(1人)、フィリピン(1人)、台湾(2人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(5人)	多文化共生とは	文化とは何か?、見える異文化、見えない異文化について学び、グループに分かれて話しあい、発表	原澤伊都夫	高澤啓子
4	平成25年 11月9日 10:00- 12:00	2	日大駅前校舎	8	ウルグアイ(1人)、フィリピン(1人)、ブラジル(2人)、日本(4人)	地域研修プレゼンテーション準備	発表チーム、ポスターチーム、ウェブチームに分かれて地域研修で集めた資料を整理	田中拓郎	高澤啓子
5	平成25年 11月9日 13:30- 16:30	3	日大駅前校舎	15	ウルグアイ(1人)、ブラジル(2人)、フィリピン(1人)、台湾(2人)、ベトナム(1人)、日本(8人)	多文化共生とは②	各自のトータルカルチャーとサブカルチャーについて話し合い発表、カルチャーショックについて	原澤伊都夫	高澤啓子
6	平成25年 11月30日 13:30- 16:30	3	日大駅前校舎	15	ブラジル(2人)、フィリピン(1人)、台湾(2人)、ベトナム(1人)、日本(9人)	多文化社会の実現に向けて①	お互いの違いに気づくことの大切さ、について話し合う。行動による文化の違い、視点による文化の違い。ジョハリの窓。	原澤伊都夫	高澤啓子

7	平成25年 12月7日 10:00- 12:00	2	日大駅前校舎	6	アルゼンチン (1人)、フィリ ピン(1人)、ブ ラジル(1人)、 日本(3人)	私たちのまち の魅力発見 プロジェクト	地域研修プレゼンテーションの準備	田中拓郎	高澤啓子
8	平成25年 12月14日 10:00- 12:00	2	日大駅前校舎	7	アルゼンチン (1人)、フィリ ピン(1人)、ブ ラジル(1人)、 日本(4人)	私たちのまち の魅力発見 プロジェクト	地域研修プレゼンテーション	田中拓郎	高澤啓子
9	平成25年 12月14日 13:30- 16:30	3	日大駅前校舎	13	ウルグアイ(1 人)、ブラジル (2人)、アル ゼンチン(1 人)、フィリピン (1人)、台湾 (2人)、日本 (6人)	多文化社会 の実現に向 けて②	ブレインストーミング。テーマを決める、意見を出す、意見をまとめる、書き込み作業、発表の順に、グループに分かれて行う。	原澤伊都夫	高澤啓子
10	平成26年 1月11日 13:30- 16:30	3	日大駅前校舎	8	ブラジル(1 人)、台湾(2 人)、ベトナム (1人)、日本 (4人)	静岡県東部 のまちづくり	静岡県東部、特に沼津地域のまちづくりの現状と課題について学ぶ。住みやすいまちとはどんなまちか？自分が住んでいる地域の良いところと、なんとかして欲しいと思うところについて話し合い発表。	深澤公詞	高澤啓子
11	平成26年 1月18日 13:30- 16:30	3	沼津商連会館	12	ブラジル(1 人)、フィリピン (1人)、台湾 (2人)、日本 (8人)	静岡県のまち づくり	静岡県の多文化共生への取組と、静岡県の観光について学び、分かったことをグループに分かれて話しあう	河森佳奈子、袴田祐司、高澤啓子	
12	平成26年 1月25日 13:30- 16:30	3	沼津商連会館	7	ブラジル(2 人)、アルゼン チン(1人)、台 湾(1人)、日 本(3人)	地域のコミュ ニケーション を考える	自分が住んでいる地域の良いところ、良くないところを見つける。ある文章を読んで、何についての説明なのかを考える。自分の異文化体験の発表。	神吉宇一	高澤啓子
13	平成26年 2月1日 13:30- 16:30	3	沼津市立図書	8	ブラジル(1 人)、フィリピン (1人)、台湾 (1人)、日本 (5人)	多文化共生 サポーター必 携日本語①	相手が良い気持ちになる日本語を探して褒めあう。先輩多文化サポーターのお話を聞く。	堀永乃、金城アイコ	高澤啓子
14	平成26年 2月8日 13:30- 16:30	3	日大駅前校舎	4	ブラジル(1 人)、アルゼン チン(1人)、 フィリピン(1 人)、日本(1 人)	多文化共生 サポーター必 携日本語②	災害時に役立つ日本語。情報を正しく伝える練習。【特殊事情あり。大雪のため、各地でバス、ローカル線がストップし、会場まで来られない受講者続出】	堀永乃	高澤啓子
15	平成26年 2月15日 13:30- 16:30	3	沼津商連会館	7	ブラジル(1 人)、アルゼン チン(1人)、 フィリピン(1 人)、台湾(1 人)、日本(3 人)	まとめ	講座全体の振り返り、講座アンケート、多文化共生サポーターとしてこれからどのようなことが出来るか話し合い、紙に書く。	高澤啓子	

(7) 参加者の募集方法

チラシ配布、facebookでの告知、静岡県多文化共生課のメーリングリスト、静岡県国際交流協会のホームページにて告知。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

第5回

自分のトータルカルチャーとサブカルチャーについて、カルチャーショックの変遷についてディスカッションとワークショップで学んだ。



第12回

異文化コミュニケーションについて、ワークショップを取り入れながら学んだ。ある物事について書かれた文書から、その中身が何かを考えてみると、いかに自分が先入観が強いかを感じることができた。これにより、コミュニケーションでは2者が同じ情報を得ている状態を前提に行っていく必要があること、異文化を理解しながら「伝える」ことを考える必要があることを学んだ。



第14回

多文化共生サポーターが「やさしい日本語」を学ぶ。情報をわかりやすく伝える実践練習を行い、伝えることの難しさを体感した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

静岡県東部で活躍する日本語能力が高い外国人の方々が国籍を超えて知り合えたことは、大きな成果であったと考える。また、このような講座が今までになかったということで、受講者からも「学んでよかった」「コミュニケーションについて初めて考えるきっかけとなった」といったような感想を得られた。富士山のふもとにある地域間での文化や習慣、行政の仕組みの違いなども共有することができたので、日本在住の外国人リーダーになりうる人材の発掘と情報共有をすることが可能となった。

(10) 改善点について

入試、大雪の関係で2回、大学側の理由により会場変更を余儀なくされたことがあった。致し方ないこととはいえ、常設で使える会場の確保をしたほうがよかった。受講生の利便性を考えると沼津駅周辺が良いが、今後は固定した教室環境(居場所)を確保できるようにしたほうが良い。専門家の方をゲストに迎える場合、漢字のルビがなかったり説明の日本語の難易度が高すぎて、受講者が理解しきれないことがあった。これには、受講者からも要望があったため、今後は専門家を迎える前に十分な打ち合わせと、その前の予備学習ができるようにしておいたほうが良い。

○取組2: 多文化共生サポーターによる世界文化遺産・富士山と静岡県の魅力発見・発信プロジェクト

(1) 体制整備に向けた取組の目標

世界文化遺産である富士山周辺の文化施設、世界文化遺産構成資産について日本人と外国人が協働して学ぶ活動を通してその魅力を再発見し、その魅力を日本語と母語により内外に広くPRできるような力を養成する。また、この世界文化遺産の魅力を外国人と日本人市民とが協働により見出すことで、相互理解と連帯感、地域への関心が生まれ、当該地区の文化を尊重し、地域住民としての意識を確立させていくことを目標とする。

(2) 取組内容

外国人が社会参画に必要な日本語指導も出来る日本人多文化共生サポーターを育成し、高度な人材へと育成されている過程にある取組1の外国人受講者とともに地域の活力とすべく、その人材育成のプロセスを多様な機関によって確立していく。また、日本人と外国人受講者が協働し自発的に企画・運営するワークショップを含む地域資源の魅力発見プロジェクトを開催する。外国人が地域住民と一緒に実体験を交えつつ行う日本語講座として静岡県東部および富士山周辺の文化施設および世界文化遺産構成資産を巡るフィールドワークを実施するが、富士山周辺は文化施設や世界文化遺産構成資産が点在しており、公共交通機関の便も良くないため、参加者全員がより安全に効率良く移動するには貸切バスを利用することが最適であることから、バスは地元の一つの会社に見積りを取り安価な方を選択した。そしてフィールドワークで得た知識や資料を日本人と外国人が協働してまとめ実際に成果物を作成し発表・発信することで高度な日本語運用力を習得し、一つのプロジェクトの運営を通して偏見の無い相互理解と社会参画につなげていく。

(3) 対象者 静岡県東部地域在住の日本人市民と取組1の受講者

(4) 参加者の総数 50人

(出身・国籍別内訳 ウルグアイ1人、ブラジル2人、アルゼンチン2人、ペルー2人、フィリピン1人、日本42人)

(5) 開催時間数(回数) 12 時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 10月13日 7:30- 19:30	12	富士山周辺 文化遺産構 成資産	50人	ウルグアイ1 人、ブラジル2 人、アルゼン チン2人、ペ ルー2人、フィ リピン1人、日 本42人	地域研修	世界文化遺産富士山の文化遺産構成施設、博物館等の視察・訪問、地元住民との交流	久保田実	高澤啓子、堀永乃

(7) 参加者の募集方法

チラシ、SNSにより公募。

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

富士山周辺の歴史、文化に触れるためのフィールドワークを行った。富士宮では、地元中学生が夏休みに調査した石碑の歴史について、学生たちに発表をしてもらった。在住外国人に説明することが初めてだったため、学生たちは緊張しながらも一生懸命にわかりやすく説明してくれた。これにより、地元住民として中学生と外国人の交流に機会となった。



- (9) 取組の目標の達成状況・成果
地元の魅力を伝えることをテーマに、ホームページ、ポスター、口頭発表の3チームに分かれてそれぞれのチームがプレゼンテーションの練習を行った。何を伝えたいのか、どう伝えるのがいいのかを日本人と外国人が協働しながら考えることで、双方の異文化理解を深める機会となった。また、ホームページはブラジル出身の外国人受講者により更新されるようになり、外国人側から伝える地元の魅力という目標に達成することができた。アンケートでは、時々日本語の難易度が高く、わかりづらかったという声もあったが、とても勉強になったという声が多数聞かれた。
- (10) 改善点について
プレゼンテーションの内容を詰めていくにつれ、日本語についていけなくなった受講者が脱落。フォローアップ体制を充実する必要があった。また、受講者同士が協働してフィールドワークをするにあたり、事前の準備、仕掛けをもっとよく練っておいたほうがよかった。

○取組3:地域に活力を与える多文化共生を考えるシンポジウム

- (1) 体制整備に向けた取組の目標
取組1と取組2における成果を発表し、地域住民に多文化共生の意義を広く周知させ、生活者としての外国人への日本語教育の必要性をアピールする。
- (2) 取組内容
取組1と取組2における多様な機関による多文化共生サポーター育成事業の成果を発表し、地域住民に多文化共生の意義を広く周知させ、生活者としての外国人への日本語教育が、外国人のみならず、日本人にとっても、地域にとっても意義のあるものであることを理解してもらうため、講演、パネルディスカッション、ポスターセッションを行い、静岡県東部地域に共通した多文化共生のノウハウを紹介し、発信するためのシンポジウムを開催する。
- (3) 対象者
静岡県および沼津市在住の外国人と日本人。他県の国際交流協会や行政関係者(外国人集住都市会議会員都市担当者)、NPO等。
- (4) 参加者の総数 48 人
(出身・国籍別内訳 フィリピン1、アルゼンチン1、ブラジル3、台湾1、日本39 不明3)
- (5) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 1 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 3月15日 13:00- 17:00	4	プラサヴェル デ	48人	フィリピン(1)、 アルゼンチン (1)、ブラジル (3)、台湾(1)、 日本(39) 不 明(3)	地域が輝く多 文化共生と は？	取組1と2の成果を発表し、地域住民に多文化共生の意義を周知し、生活者としての外国人への日本語教育が外国人のみならず日本人にも地域にとっても意義のあるものであることを理解してもらうための講演、パネルディスカッション、ポスターセッション。	田村太郎、 原澤伊都 夫、川森佳 奈子、堀永 乃、田中拓 郎、仲間ク ラウディア、杉 山エヴァア グステイン	久保田実、高澤啓 子、天野沙耶、原 田知博、小谷田洋 子



(7) 参加者の募集方法

チラシ配布、facebookでの告知、静岡県多文化共生課のメーリングリスト、静岡県国際交流協会のホームページにて告知。訪問による告知(沼津市役所、三島教育委員会、沼津ライオンズクラブ、沼津商工会議所、ソロプチミスト駿河、沼津自治会連合会、沼津国際交流協会等)

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

活動の特徴。第一部では田村太郎氏が「多様性を活かしたまちづくり」と題して講演。第二部では日本人パネリスト2名がそれぞれの多文化共生への取組を紹介。外国人受講者代表の2名のパネリストが講座受講後の感想や日本で暮らして感じていることを発表。シンポジウムの前後と休憩時にはポスターセッションを行った。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

静岡県東部では初めての試みであったにも関わらず、これまでの東部の現状から予測した以上の参加者を得ることが出来、特に、ふだん外国人と接する機会の少ない地域住民や、幅広い団体からの参加者を得ることが出来たことは大きな成果であった。参加者アンケートでも、多文化共生への新しい知識が得られた、外国人と共に暮らしているという意識が持てた、日本語教育や外国人を地域に受け入れる活動をしたい等、地域住民の啓発になった。

(10) 改善点について

シンポジウムを開催する時期をもう少し早めた方が良かった。年度末のため、当初予定していた会場の他、ほとんどの候補会場が税務署や市に優先的に押さえられてしまった上、やっと取れた会場は、会場の設営(長机や椅子等を倉庫から出して並べるなど)と撤去を全てこちらでやらなければならず、雑巾等の掃除道具もこちらで用意して清掃しなければならず、作業補助者が当初予定していた1人では不可能で増員しなければならなくなってしまった。

○取組4:多文化共生育成協議会の設置

(1) 体制整備に向けた取組の目標

当初取組2に含まれていた多文化共生サポーター育成協議会の設置を取組2から切り離して独立させ取組4とし、多文化共生、日本語教育、人材育成の専門家により設置した多文化共生サポーター育成協議会において多文化共生サポーター育成のためのキャリアデザインノウハウの構築を図る。取組1(日本語教室)と取組2(地域と世界文化遺産の魅力再発見)を通して、外国人がどのような日本語を習得すれば社会参画までに至るのか、そのキャリア形成のデザインをまとめて成果物とし運営委員会に提出し全取組のふりかえりやまとめの資料としていく。またその成果物を事業終了後も有効に活用できるよう協議会のメンバーに外国人受講者と日本人受講者の中から将来多文化共生サポーターのリーダー的存在として活動出来そうな人材を一名ずつ選抜して育成協議会のメンバーに加え、講座終了後も活動が継続できる道筋をつくる。

(2) 取組内容

多文化共生、日本語教師、人材育成の専門家および地域住民との連携と協働により、多文化共生サポーター育成協議会を設置し、多文化共生社会の構築を担う高度人材へと外国人を育成するのに必要な日本語指導やキャリアデザインのノウハウを取りまとめる

(3) 対象者 多文化共生、日本語教育、人材育成の専門家および受講者2名

(4) 参加者の総数 6 人

(出身・国籍別内訳 アルゼンチン1、フィリピン1、ブラジル1、日本3)

(5) 開催時間数(回数) 10 時間 (全 5 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成26年 1月11日 11:00- 13:00	2	三島北口	4	ブラジル1、日 本3	多文化共生 サポーター育 成協議会に ついて	協議会のメンバーについて、協議会 の内容について、来年度に向けて	原澤伊都夫、堀永乃、高澤啓子、 原田知博、
2	平成26年 2月1日 17:00- 19:00	2	沼津ゆずの さと	6	アルゼンチン 1、フィリピン 1、ブラジル1、 日本3	受講者にヒア リング	受講者に、日本語がもっと出来るよ うになったらどんなことがしたいか、 どんな教育サポートが出来るようにな ったら良いと思うかヒアリング。	原澤伊都夫、堀永乃、高澤啓子、 原田知博、仲間クラウディア、杉 山エヴァアグスティン
3	平成26年 2月8日 10:00- 12:00	2	日大三島北 口校舎	6	アルゼンチン 1、フィリピン 1、ブラジル1、 日本3	受講者の学 びについて	第二回目で行ったヒアリングの内容 の確認。受講者の学びと評価。受講 者が多文化共生サポーターとしてこ れから活動を継続させていくために 必要な環境について。	原澤伊都夫、堀永乃、高澤啓子、 原田知博、仲間クラウディア、杉 山エヴァアグスティン
4	平成26年 2月15日 10:00- 12:00	2	東部イノー ションセン ター	6	アルゼンチン 1、フィリピン 1、ブラジル1、 日本3	シンポジウム	3月15日のシンポジウムでの育成協 議会委員の役割分担について。	原澤伊都夫、堀永乃、高澤啓子、 原田知博、仲間クラウディア、杉 山エヴァアグスティン
5	平成26年 3月6日 12:00-14: 00	2	東部イノー ションセン ター	6	アルゼンチン 1、フィリピン 1、ブラジル1、 日本3	シンポジウ ム、今後の取 組	シンポジウムの流れ、発言したいこ とを確認。来年度も継続していくため に何が出来るか。	原澤伊都夫、堀永乃、高澤啓子、 原田知博、仲間クラウディア、杉 山エヴァアグスティン

(7) 参加者の募集方法

事業運営委員、講師、指導者、受講者より選抜。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

外国人が多文化共生サポーターとして地域で活動を継続していくために、どのような体制整備が必要か、外国人の生の声を聞きながら意見交換。



(9) 外国人が地域で社会参画するために必要な日本語能力については漢字の習得がネックになっていること、日本人の異文化に対する理解も必要であることが分かったが、どちらも一朝一夕に解決出来る問題ではない。講座終了後も定期的に会う機会を設けることになった。

(10) 改善点について

受講者の中から育成協議会のメンバーを選抜するには、ある程度講座が進まないと難しいため、第1回目の協議会には受講者を参加させることが出来なかったため、次回からは育成協議会をスタートさせる時期を検討する必要がある。いつでも自由に集まって情報交換が出来る場所が必要だが、沼津市内には現在そのような場所がない。これから行政等に要望していくしかない。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

沼津市や三島市、富士市などの静岡県東部地域では日本語能力が入門・初期レベルの外国人に対する日本語教育事業は進んでいる。しかし、彼らが社会参画するまでの日本語教育の支援は不十分である。しかし、これからの多文化共生社会の構築には、高い日本語能力を有する外国人が率先して地域の活動に参画し、日本語で意思疎通を図り、相互理解を深める機会が必要である。同時に地域住民が日本語教育に関わり外国人の日本語教育が日本の社会にとっても意義があることを実感することも日本語教育の体制整備に必要であると考え。そこで在住外国人の能力を地域住民との協働で地域に活かすことを目標に、外国人と日本人の多文化共生サポーターを育成し、地域の活性化を図り多文化共生社会づくりを目指していく。静岡県東部地域は世界遺産「富士山」を有する大変風光明媚な地域である。なかでも富士・沼津・三島エリアにはデカセギと呼ばれる外国人・研修生・就学生・留学生だけでなく定住する外国人も増加しており、この20年間で外国人登録者数は全国で10位から8位に、人数は約3.5倍になっている。彼らが自ら居住する地域に愛着を持ち、日本人住民と良好な意思疎通が出来る日本語能力を身につけ、さらにはオールドカマーとニューカマーを繋ぐ役割も果たしていけるような道筋を整備することにより、外国人の日本語能力の向上と、外国人・日本人双方の多文化共生についての意識啓発を図っていききたい。

(2) 事業目的の達成状況

静岡県東部で活躍する日本語能力が高い外国人の方々が国籍を超えて知り合えたことは、大きな成果であったと考える。また、このような講座が今までになかったということで、受講者からも「学んでよかった」「コミュニケーションについて初めて考えるきっかけとなった」といったような感想を得られた。日本人と外国人が協働しながら考えることで、双方の異文化理解を深める機会となった。

(3) 地域における事業の効果、成果

富士山のふもとにある地域間での文化や習慣、行政の仕組みの違いなども共有することができたので、日本在住の外国人リーダーになりうる人材の発掘と情報共有をすることが可能となった。ホームページはブラジル出身の外国人受講者により更新されるようになり、外国人側から地元の魅力を伝えるという目標達成することができた。シンポジウムは静岡県東部では初めての試みであったにも関わらず、これまでの東部の現状から予測した以上の参加者を得ることが出来、特に、ふだん外国人と接する機会の少ない地域住民や、幅広い団体からの参加者を得ることが出来たことは大きな成果であった。参加者アンケートでも、多文化共生への新しい知識が得られた、外国人と共に暮らしているという意識が持てた、日本語教育や外国人を地域に受け入れる活動をしたい等、地域住民の啓発になった。

(4) 改善点, 今後の課題について

i 現状

外国人が地域で社会参画するために必要な日本語能力については漢字の習得がネックになっている。事業実施団体の構成員全員が本業の傍らボランティアで活動しており本業が忙しい時期には活動に使える時間が制限されてしまう。事務所を構えているわけではないので常に自由に使えるスペースがない。いつでも自由に集まって情報交換が出来る場所が必要だが、沼津市内には現在そのような施設がない。

ii 今後の課題

入試、大雪の関係で2回、大学側の理由により会場変更を余儀なくされたことがあった。致し方ないこととはいえ、常設で使える会場の確保をしたほうがよかった。専門家の方をゲストに迎える場合、漢字のルビがなかったり説明の日本語の難易度が高すぎて、受講者が理解しきれないことがあった。これには、受講者からも要望があったため、今後は専門家を迎える前に十分な打ち合わせと、その前の予備学習ができるようにしておいたほうがいい。プレゼンテーションの内容を詰めていくにつれ、日本語についていけなくなった受講者が脱落。フォローアップ体制を充実する必要があった。シンポジウムを開催する時期をもう少し早めた方が良かった。年度末のため、当初予定していた会場の他、ほとんどの候補会場が税務署や市に優先的に押さえられてしまった上、やっと取れた会場は、会場の設営(長机や椅子等を倉庫から出して並べるなど)と撤去を全てこちらでやらなければならない、雑巾等の掃除道具もこちらで用意して清掃しなければならない、作業補助者が当初予定していた1人では不可能で増員しなければならないってしまった。受講者の中から育成協議会のメンバーを選抜するには、ある程度講座が進まないと難しいため、第1回目の協議会には受講者を参加させることが出来なかったため、次回からは育成協議会をスタートさせる時期を検討する必要がある。

iii 今後の活動予定

外国人が地域で社会参画するために必要な日本語能力については漢字の習得がネックになっていること、日本人の異文化に対する理解も必要であることが分かったが、どちらも一朝一夕に解決出来る問題ではない。講座終了後も定期的に会う機会を設けることになった。これからも同様の講座を継続させていきたい。これまで非常に消極的であった行政に積極的に働きかけを行う。